【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成28年8月25日(2016.8.25)

【公開番号】特開2016-45646(P2016-45646A)
【公開日】平成28年4月4日(2016.4.4)
【年通号数】公開・登録公報2016-020
【出願番号】特願2014-168645(P2014-168645)
【国際特許分類】
Ｇ０８Ｂ　25/04　(2006.01)
Ｇ０８Ｂ　21/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０８Ｂ　25/04　Ｋ
Ｇ０８Ｂ　25/04　Ｆ
Ｇ０８Ｂ　25/04　Ｇ
Ｇ０８Ｂ　21/02

【手続補正書】
【提出日】平成28年7月11日(2016.7.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
前記解決するため、本発明は、集合住宅の入退出を制御する入退出コントローラと、前記入退出コントローラに接続されるパーソナルコンピュータと、各居室に設置され、前記集合住宅の各居室に居住者が在室しているか否かを確認するための在室確認用スイッチと、を備えた集合住宅の居住者の安否確認支援システムであって、前記パーソナルコンピュータは、在室データ、居住者データ及び優先度データを記憶する記憶装置、並びに居室毎に安否確認を行なう優先度を設定する制御装置を含み、災害が発生したとき、前記制御装置は前記入退出コントローラに各居室の居住者の在室確認を依頼し、前記入退出コントローラは、前記依頼を受けて前記在室確認用スイッチの操作状態から居住者の在宅データを取得して前記制御装置に出力し、前記制御装置は、前記入退出コントローラから入力された前記在宅データに基づいて居住者の在・不在を判定し、前記居住者データ及び前記優先度データから予め設定された複数の居室単位で安否確認を行なう優先度を設定することを特徴とする。なお、前記以外の課題、構成及び効果は、以下の実施形態の説明によって明らかにされる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
集合住宅１は、共用部玄関２、エントランスホール６、エレベータＥＬの昇降路６Ａ、階段６Ｂ、各階床の居室２２を備えている。共用部玄関２は、集合住宅１の共用部の入口であり、この共用部玄関２には読取装置３Ａを備えるカードリーダ３が設けられている。この読取装置３Ａが図示しないＩＤカードに記憶されている識別コードを読み取り、この識別コードが入退出コントローラ４の記憶部５に記憶されていると、共用部玄関２とエントランスホール６の間に設けた自動ドア７を開放させる。これにより、集合住宅１へ居住

者以外の入館を制限し、セキュリティが確保されことになる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
記憶部５は、識別データ格納部５Ａ、入館履歴データ格納部５Ｂ及び在室データ格納部５Ｃを含む。識別データ格納部５Ａは、集合住宅１の居住者が個々に保有する図示しないＩＤカードの識別コードを記憶する。入館履歴データ格納部５Ｂは、集合住宅１の居住者が保有する図示しないＩＤカードをカードリーダ３に翳し、読取装置３Ａが読み取った図示しないＩＤカードの識別コード、及び読取装置３Ａが読み取った時刻を記憶する。在室データ格納部５Ｃは、集合住宅１の居住者が後述する在室確認用スイッチ２２Ｄを操作した時刻と居室番号を記憶する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
集合住宅１の共用部玄関２およびエントランスホール６とは別に、集合住宅１の専有部である２階には、２０１号室を含めて複数の居室２２が設けられている。２０１号の居室２２は、扉２２Ａ、電気錠２２Ｂ、カードリーダ２２Ｃ及び電気錠制御部２３が設置されている。扉２２Ａは玄関に設けられた扉であり、電気錠２２Ｂは扉２２Ａの施解錠を行う。カードリーダ２２Ｃは、扉２２Ａの近傍に設けられ、電気錠制御部２３は、カードリーダ２２Ｃで読み込んだＩＤカードの認識コードが、２０１号の居室２２の扉２２Ａの電気錠２２Ｂにおける解錠許可条件に合致するとき電気錠２２Ｂへ施解錠信号を出力する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
居室２０１号室（２２）には、在室確認用スイッチ２２Ｄ及びランプ２２Ｅが設けられている。在室確認用スイッチ２２Ｄは、操作時刻と居室番号で構成される居室２２の在室情報を、電気錠制御部２３を介して入退出コントローラ４へ出力する。ランプ２２Ｅは、入退出コントローラ４に接続したパソコン１４の制御装置１６あるいは入退出コントローラ４のＣＰＵ８の指令信号によって点灯制御される。ここで、在室確認用スイッチ２２Ｄとランプ２２Ｅは集合住宅１の全居室２２に設けられる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
ここで、二回目の安否確認を実施する際、防災担当役員は、ステップＳ１～ステップＳ１１のパソコン１４への操作を行って、安否確認リスト２８を作成し、各階の役員は、安否確認リスト２８における確認方法２８Ｃ５欄が「不要」、及び在・不在２８Ｃ３欄が「不在」と記載されている居室番号２８Ｃ１が２０２で示される居室２２と２０５で示される居室２２に対する安否確認を、重点的に行えば良い。三回目の安否確認が行われるとき

、防災担当役員は、安否確認リスト２８における確認方法２８Ｃ５欄が「不要」、及び在・不在２８Ｃ３欄が「不在」と記載されている居室番号２８Ｃ１が２０２と２０５の２つの居室２２に対し、図示しないマスターキー等で入室し、安否状況の目視確認を実施すれば、居住者の安否を確実に確認することができる。また、パソコン１４を入退出コントローラ４から取り外すと、入退出コントローラ４のＣＰＵ８は、電気錠制御部２３へランプ２２Ｅの消灯信号を送信し、全居室のランプ２２Ｅを消灯させる。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
さらに、本実施形態では、入退出コントローラ４にパソコン１４を接続させて、居室における在・不在の確認、あるいは要救護者リスト２７及び安否確認リスト２８の作成を行うようにしているが、入退出コントローラ４と通信回線を介して遠隔的に接続され、建物１の設備機器の異常発生を監視する監視センタで前記材・不在の確認、あるいは要救護者リスト２７及び安否確認リスト２８を作成しても通信回線が確立されていれば、同様に処理することが可能で、同様の効果を得ることができる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
（１）集合住宅１の入退出を制御する入退出コントローラ４と、入退出コントローラ４に接続されるパーソナルコンピュータ１４と、各居室２２に設置され、集合住宅１の各居室２２に居住者が在室しているか否かを確認するための在室確認用スイッチ２２Ｄと、を備えた集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、パーソナルコンピュータ１４は、在室データ、居住者データ及び優先度データを記憶する記憶装置１７、並びに居室２２毎に安否確認を行なう優先度を設定する制御装置１６を含み、災害が発生したとき、制御装置１６は入退出コントローラ４に各居室２２の居住者の在室確認を依頼し、入退出コントローラ４は、前記依頼を受けて在室確認用スイッチ２２Ｄの操作状態から居住者の在宅データを取得して制御装置１６に出力し、制御装置１６は、入退出コントローラ４から入力された在宅データに基づいて居住者の在・不在を判定し、居住者データ及び優先度データから予め設定された居室２２単位で安否確認を行なう優先度を設定するので、居室２２毎の在・不在情報を正確に把握することができる。また、単身世帯あるいは同居世帯（居住者データ）、及び居住者に就学前の小学生あるいは６５歳以上の男女の存在（優先度データ）等、世帯条件に応じた安否確認の優先順位と、前述した居室２２毎の在・不在情報を組み合わせた安否確認行動を設定するようにしたので、正確かつ迅速な安否確認を行うことができる。

【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
（２）集合住宅１の共有部玄関２及び各居室２２の自動ドア７及び扉２２Ａ（出入口扉）の近傍に設けられてＩＤカードに記憶されている認識コードを読み込むカードリーダ３，２２Ｃ、及び自動ドア７及び出入口扉の開閉を制御する入退出コントローラ４及び電気錠制御部２３（制御部）と、をさらに備え、カードリーダ３，２２Ｃが読み込んだ認識コ

ードは入退出コントローラ４及び電気錠制御部２３（制御部）に送信され、カードリーダ３，２２Ｃが読み込んだ認識コードが入退出コントローラ４及び電気錠制御部２３に予め記憶されている集合住宅居住者に付与される認識コードと合致したとき、共用部玄関２に設けた自動ドア７および出入口扉２２Ａを開放し、カードリーダ３，２２Ｃが読み込んだＩＤカードの認識コードと読み込み時刻は入退出コントローラ４及び電気錠制御部２３（制御部）に格納されるので、居住者の入退出動作に伴って入退出情報が入退出コントローラ４及び電気錠制御部２３（制御部）に格納され、そのときの最新の居住者情報が常に更新される。これにより、災害発生時に在室確認情報と参照すれば、精度の高い在・不在情報を得ることができる。

【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
（４）各居室２２に設置され、入退出コントローラ４のＣＰＵ８又は前記パーソナルコンピュータ１４の指令信号によって点滅制御され、在室確認用スイッチ２２Ｄの操作により、点灯制御されるランプ２２Ｅを備えたので、ランプ２２Ｅを点滅させ、居住者に対して在室確認用スイッチ２２Ｄの操作を促し、ランプ２２Ｅの点滅に気付いた居住者は、在室確認用スイッチ２２Ｄを操作することにより、役員が安否確認に要する時間を短縮することができ、効率的な安否確認が可能となる。

【手続補正１１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
集合住宅の入退出を制御する入退出コントローラと、
前記入退出コントローラに接続されるパーソナルコンピュータと、
各居室に設置され、前記集合住宅の各居室に居住者が在室しているか否かを確認するための在室確認用スイッチと、を備えた集合住宅の居住者の安否確認支援システムであって、
前記パーソナルコンピュータは、在室データ、居住者データ及び優先度データを記憶する記憶装置、並びに居室毎に安否確認を行なう優先度を設定する制御装置を含み、
災害が発生したとき、前記制御装置は前記入退出コントローラに各居室の居住者の在室確認を依頼し、
前記入退出コントローラは、前記依頼を受けて前記在室確認用スイッチの操作状態から居住者の在宅データを取得して前記制御装置に出力し、
前記制御装置は、前記入退出コントローラから入力された前記在宅データに基づいて居住者の在・不在を判定し、前記居住者データ及び前記優先度データから予め設定された居室単位で安否確認を行なう優先度を設定することを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。
【請求項２】
請求項１に記載の集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、
前記集合住宅の共用部玄関の自動ドア及び各居室の出入口扉の近傍に設けられてＩＤカードに記憶されている認識コードを読み込むカードリーダと、
前記自動ドア及び出入口扉の開閉をそれぞれ制御する前記入退出コントローラ及び制御部と、をさらに備え、
前記カードリーダが読み込んだ前記認識コードは前記入退出コントローラ及び前記制御

部に送信され、
前記カードリーダが読み込んだ前記認識コードが前記入退出コントローラ及び前記制御部に予め記憶されている前記集合住宅居住者に付与される認識コードと合致したとき、前記自動ドアおよび前記出入口扉を開放し、
前記カードリーダが読み込んだ前記ＩＤカードの前記認識コードと読み込み時刻は前記入退出コントローラ及び前記制御部に格納されることを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。
【請求項３】
請求項１又は２に記載の集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、
前記在室確認用スイッチは、前記入退出コントローラ又は前記パーソナルコンピュータの指令信号によって操作による信号出力が有効となることを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。
【請求項４】
請求項３に記載の集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、
前記各居室に設置され、前記入退出コントローラ又は前記パーソナルコンピュータの指令信号によって点滅制御され、前記在室確認用スイッチの操作により、点灯制御されるランプを備えたことを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。
【請求項５】
請求項１ないし４のいずれか１項に記載の集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、
前記予め設定された居室単位が、予め設定された複数の居室を１つの単位とすることを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。
【請求項６】
請求項５記載の集合住宅居住者の安否確認支援システムであって、
前記１つの単位が階床毎の複数の居室であることを特徴とする集合住宅居住者の安否確認支援システム。